

令和6年度すくすく泉事業 実績報告書（仮）

（団体名：NPO 法人 いずみの会）

【事業名称】
「すくすく泉」事業
【事業理念】
<ul style="list-style-type: none">●「保育」、「一時預かり」、「子育てひろば」を一つ屋根の下に、地域の子どもたちが地域の人々に愛されて育つ場をつくります。●樹木に囲まれた自然空間や泉文庫の豊富な絵本等、地域で大切に受け継がれてきた財産を活かして子どもの感性を育み、そこで過ごす子どもにとって、楽しく豊かな原風景となる場をつくります。●地域の中の多世代の交流を大切に、子育てを通してみんなが豊かな時を過ごす場をつくります。●子育ての不安感、負担感、孤立感を軽減し、相談しやすく、様々な子育て情報を得られる場をつくります。
【事業内容】
<p>【子育てひろば事業】</p> <ul style="list-style-type: none">・乳幼児親子の日常的な居場所として、育児不安の支えとして、また、地域とのつながりの入り口として、誰もがホッとできる心地のいい場を提供する。・多胎育児、低月齢、特別な配慮が必要な子、転居間もない親子、外国人の親、ひとり親、里親、祖父母育児、など、さまざまな育児のスタイルがあり、それぞれが抱える不安がある。どんな利用者にも寛容な場であり、気軽にきてホッとでき、安心して過ごせる場を提供する。・手作りや木の温かみのあるおもちゃで遊び、いずみ文庫で多くの絵本に触れ、隣接の公園でのびのび外遊びをする。子どもたちが安全に楽しく過ごせる場を提供する。・親同士の自然な出会いや支え合いができるようなはたらきかけをし、孤立子育てからの脱却、共に支えあう子育てを促す。・子育て関連情報がワンストップで手に入る、また、利用者のニーズに合わせて紹介し地域へつなぐ役割をもつ。内容によっては専門機関へつなぐ。・専門家・専門機関と繋がり子育てに役立つ講座を開催したり、みんなで子育てを楽しむイベントを企画し提供する。内容により対面またはオンライン、また、隣接する公園を活用して行う。・地域の人々や他団体との連携によるイベントや講座の開催により、地域との出会いを創出する。

【一時預かり事業】

- ・保護者の育児に伴う精神的および身体的負担の軽減のため、理由を問わない一時的な預かり保育を行う。（１～６時間、０歳は～４時間）登録済みメンバーに対して事情による緊急預かりにも対応する。
- ・以下の３点を重要な骨組みとした考えは一貫して変わらない。
 - * 命を守り無事にお返しする。
 - * 安心して保護者を待てるような子どもの心の安定。
 - * 安心して子どもと離れていられるような保護者からの信頼。
- ・外国籍、障害などで利用をためらう方にも、丁寧なコミュニケーションにより安心して相談してもらい、できるだけ利用につながるようにする。
- ・保育園、幼稚園などに通っていない乳幼児にも他者と関わりながら育つ機会をつくり、また、その保護者の子育てを支える存在となる。（定期利用など）

【小規模保育事業】

- ・常勤保育士を中心に話し合いながら、一人ひとりに合わせた保育を積み重ねる。特に発達に配慮が必要な子どもや支援が必要な保護者へは専門機関と連携を取りながら丁寧な読み取りと対応をしていく。
- ・基本方針と保育目標は変わらない。

保育の基本理念基本方針

- * 一人ひとりの子どもを愛し、尊重します。
子どもが最善の利益とその権利を尊重され、心身共に健康で、未来を創造する基礎が育つよう、チームワークを活かして保育する。
- * 乳幼児期を豊かにするために家庭と連携します。
人間性の土台が育つ大事な時期としての認識や子育ての喜びを共有し、乳幼児期を豊かに生きるために保育者と保護者が連携していく。
- * 地域から生まれ、子どもをまん中に地域が支え合う関係づくりをめざします
地域の自然や文化、様々な物的・人的資源を保育に活かします。また、子育てを通して多世代がつながりを深める拠点となり、地域全体の福祉や家庭支援に寄与していきます

保育目標

- * 自分が好き、みんなが好きなこども
- * 心も体も健やかな子ども

- ・子ども一人ひとりの心と身体の成長発達を保障する。
- ・保護者の気持ちに寄り添ったコミュニケーションを重ねる。また、情報が氾濫する世の中で、私たちが子育てで大事にしている基本的な考えを、折に触れて情報発信する。
- ・園と保護者代表が、有識者を交えて対等に意見を出し、よりよい保育現場および運営について話し合う運営委員会を定期的に行う。
- ・多世代、地域の子育て家庭、近隣の園、小中学校など、地域との関わりの機会を大切にする。
- ・保育者の資質向上と保育の質を高めるため、研修やディスカッションを重ねていく。

- ・ ITC 化や仕事を整理分担することで、日常の保育の質を落とさずに効率化し、働きやすい環境づくりを進める。

【事業効果・波及効果】

【子育てひろば事業】

- ・ 開所 10 年を迎え、講座などをお願いしていた専門家が新しい顔ぶれになったり、ひろば常勤スタッフとして新たな職員も加わり、ひろばの役割という基本を振り返る機会を増やすことができた。プログラムを大きく変える余裕はなかったが、利用者の様子によってマイナーチェンジをしながら、来年度に向けての準備をしてきた。

「はじめてのひろば」(月 1 回)

はじめていずみのひろばを利用する妊婦～12 か月が対象。予約制。当施設の利用の仕方だけでなく、市内の他のひろばの情報も提供。「子育てひろば」を活用するメリットを伝えた。その後ベビーマッサージに参加したり、こらぼのに来てくれたり、土曜日に父親も来所したりと日常の利用に繋がっていく。参加者には他のひろばを含めてどこも利用したことがないという方が半数以上いて、この機会を残しておくべきと考えている。妊婦の利用は今年度 1 組だけだった。

「Tomony」「TomonyDay」(各月 1 回)

- ・ 父親も参加しやすい土曜日に、父子または家族で参加できるプログラムを開催。Tomony は「共に」の意味で、夫婦で共に、家族で共に、子育て仲間と共に、地域と共に、など、子どもを育てるのは母親一人の役割でもないし、また、母親だけの楽しみでもない、というコンセプト。

- ・ 「Tomony」の内容は毎月違う様々な講座やイベント。

助産師による「パパのベビーマッサージ講座」、保育士による「おんぶ講座」、薬剤師による「パパの栄養講座」、みんなで楽しむ「コンサート」や「夕食持ち寄り会(すくすくナイト)」など、育児の知識アップや、父親の育児参加推進、夫婦で共に子育てをする意識の向上、参加者同士知り合うきっかけなど、どれも父親参加率は高かった。個人差はあるとしても、以前より父親のみの参加に対する抵抗も少なくなってきたと感じる。

- ・ 「TomonyDay」は、その日たまたまひろばで出会った親子が自己紹介をし合い、手遊びや絵本などをテーマにみんなで遊ぶ日。話をすることで顔なじみになり、安心して一緒に遊ばせたり、みんなで見るようになる。後半には毎回防災についてのワンポイントトークタイムを設け、若い子育て世代に地域防災の意識を持ってもらえるようにしている。企画として一番盛り上がったのは「嘘入り自己紹介」(3 つの内容を自己紹介をしたうちどれか一つが嘘で、みんなでそれを当てる) その後もいい雰囲気での会話が續いていた。

- ・ 「Tomony」「TomonyDay」どちらに参加してもスタンプがもらえ、3 つごとにオリジナルのファミリーフォトフレームをプレゼントし、家族での繰り返しの参加を促したことで顔なじみも増えた。

「すくすくタイム」(週 2 回)

- ・ 発達に不安があり育てにくさを感じている親子も一緒に過ごせるインクルーシブなひろばを目指し、子どもの発達に対する知識と理解を深める取り組みを行った。このプログラムも定着してきたようで、いつも楽しみに来てくれる親子もいる。(ただ、火曜日、木曜日ともにプレイ+トークにしてみた結果、週に 2 回は多いという声もあり、来年度は内容を見直す予定)
- ・ 「触感」「バランス感覚」「力加減」「ボディイメージ」などの感覚刺激をテーマにした遊びの紹介。片栗粉スライム、揺らし遊び、バランスボード、風船運びなどなど…。保護者は、このような遊びが子どもの発達にどのように関係しているのかを知る機会となる。子どもは遊びながら、大人は子どもの発達についての疑問や不安を話す時間。
- ・ 年齢の違う子が同じ遊びをすることで、親が発達の段階を確認する機会にもなった。

- ・子どもの遊びと発達を知ることで、「まだできない（やらない）ことへの不安がなくなった」「遊びながら発達しているという意味がわかった」との声があった。

「保活のはなし」

- ・保活のはなしは、保活を始める前に知っておくとよい〈基本のキ〉を市の保育コンシェルジュに話してもらいスムーズな保活を！という主旨で、今年度も「境おやこひろば」とのコラボでのオンライン開催にした。コラボにより広範囲の親子に情報を届けることができた。これに参加してよかった、という方は多い。また、いまだに1月ごろになって保活の動き方を知らなくて入れなかった、と焦る方もいるので、もっと周知していくとよい内容だと思う。

「取り分けご飯」

助産師さんと栄養士さんの企画で、離乳食完了後の食事を、親の食事から取り分ける方法を講座にして行ってみた。レクチャーの後、親が買ってきた市販の弁当から具体的に取り分けて食べさせてみるという実践も加えたランチ会形式にした。食べない、食に興味がないと思っていた我が子がパクパクと食べる姿に感動するとともに、味付けの加減や、形状を教えてもらって参考になったという声とともに、これでいいと専門家に言われ、ホッとしたという声が多かった。

このころになると適当に食べられそうなものをあげれば…と思うが、その「テキトウ」がわからないし、これでいいのかどうか不安だという親も多く、経験不足、相談者の無い状況を実感した。参加希望者も多く参加者の満足度も高かった。

「こらぼのコミセン親子ひろば」

月に2回、中町集会所で「こらぼのコミセン親子ひろば」を開催した。コロナ禍ですっかり減ってしまった利用者数だが、令和5年度より力を入れてチラシをつくったり、内容に変化をつけたりしながら、徐々に増えてきている。すすくく泉を知らないでコミセン親子ひろばに来た親子も何組かいて、すすくく泉の紹介をすることができた。

「公園の活用」

日常的に園庭のように利用している公園は、近隣の保育園、小学生、地域の方々との交流の場として、また、保育室とひろばの親子が一緒に遊ぶ場として活用している。

その他、プログラムでは、アートイベント、運動会、デッキを舞台にした出し物、防災訓練などで活用している。

【一時預かり事業】

- ・コロナ禍で同時間帯に3人預かりに減らし令和5年度に4人に増やしたが、令和6年度は5人と、コロナ前の定員に戻すことができた。
- ・令和5年10月から一般型一時預かり事業として、子ども育成課の管轄となりひろば事業から独立した。また、令和6年4月より多様な他者との関わりの機会の創出事業として定期預かりを実施した。保育士の配置基準が変わったため、シフト組が難しくなったが、10年間で、かなりの人数のスタッフが保育士資格を取得、また、新規で有資格者を採用してきたので、対応できた。ただし、コロナ禍で短縮した開所時間を元に戻す目途は立たなかった。それに対する問い合わせは年間2件。
- ・定期的に利用するヘビーユーザーの数が増えている。今年度から始めた週1回定期利用の枠は、予約開始時に争奪戦となっている。
- ・事前に面接や聴き取りをして登録をし、当日にも子どもの情報を聴き取り、安心安全な預かりを目指してきた。ひろばの親子の中で慣れない子どもを預かることから、その子、その子に合わせた預かりを丁寧に行った。
- ・数名の一時預かり担当者が、保育室に3日間入り実習を行った。子ども主体の保育における見守り

や保育士たちの連携を体感し、1対1でバラバラになって大人主体の保育になりがちな一時預かりを、できるだけ子ども主体にしていくにはどんな工夫ができるだろうと模索している。来年度も実習は継続する予定。各自研修を受けたり、これらの努力により、安全、安心な上に、子どもにとって「快」な一時預かりを行い、保護者から信頼を得ている。

- ・ 配慮の必要な子どもを預かることも増え、職員はミーティングやノートを活用しながら都度情報交換をした。保護者の相談にのったり、逆に保護者から普段の様子を聞くことで継続利用に繋がっている。
- ・ 外国出身の親の利用に関しても、丁寧にコミュニケーションを取って預かりを行った。登録時にわかりやすいように、英語版の利用のしおりの作成、令和7年度より活用できるように準備をしている。
- ・ ママたちが、ひろばでイライラしたり、ウトウトしたりするのを見て、少し休める場があるといいと以前から話題には出ていたが、場所がなく叶わなかった。今年、土曜日だけならできるのでは？と土曜日の保育室を利用して、ママが少しだけ一人になって横になれる「ごろごろサタデー」を始めた。30分間子どもはひろばで見守りをする。短い時間だが頭がすっきりした、と好評。

【小規模保育事業】

- ・ 今年度より、1名定員を増やし11名になったが、4.5月は2名欠員のスタートとなった。6.7月に0歳児が1名ずつ入園し、7月からは11名の定員となった。
- ・ 4月中旬に常勤保育士が入職。引き続き非常勤職員を募集しながら保育の安定をつとめていく。8月～常勤職員が休職、と言う緊急事態があり、ひろばから職員の応援に入ってもらいながら保育を行った。それにより、ひろばとの繋がりも深まり、互いの情報交換を行いながら3事業の特徴を活かすことができた。
- ・ 前園長に引き続き、保育観の共有を大事にしてきた。毎日10分ほどのミーティングを重ね、チームとしてどのように子どもとかかわっていくかなどを考える体制をつくっている。また、日々の中で感じたことを出し合い、常勤だけでなく非常勤も思っていることをしっかりと出し合い、チームワークで保育をしている。
- ・ 引き続き昨年度の保育を活かして、1クラス11人の異年齢保育の中で一人ひとりのニーズに合ったかかわりを深められた。
 - * それぞれの発達やニーズに合わせた環境をつくり、散歩の仕方も工夫してきた。それにより一人ひとりがじっくりと遊べるようになってきている。
 - * 友だちとやり取りをする中で生まれる心の葛藤も十分に経験することで、人と関わる力が育っている。また、自分で考えたり、選択したり、自分の気持ちとの折り合いをつける力も育っている。そのために保育者は子どもの観察を意識して行い、その上で、どのような立ち位置で、どのような声掛けをするかを考えている。また、それを他保育士と話し合うことで、より子ども理解を深めていった。
- ・ 保護者との信頼関係をしっかりと築いていけるように日頃からコミュニケーションをしっかりとるようにしている。また、今年度途中から、園と家庭のやり取りだけでなく、互いの家庭同士のつながりをつくるきっかけとして、園から月替わりの題材を掲示し、保護者がそれぞれの家庭の考えをそこにポストイングしていく掲示板を保育室の入り口付近につくった。他の家庭の悩みや面白い工夫が読めて好評なので、継続している。
- ・ 今まで行ってきた「保育参観・保育参加」から、「保育士体験」という形に変更。保護者が半日程度、「保育士」になって我が子だけでなく、他の子ども達とのやり取りをしたり、補助の仕事も経験してもらった。実際に、体験したことで様々な気づきや感想がたくさん寄せられた。「保育士さんの偉大さを知った」「我が子が他の子どもとどのようにかかわっているかよくわかった」「ほかの子の名前を覚えて、送り迎えの時に挨拶してくれるようになって嬉しい」など。

- ・運営委員会で保護者同士で何か一つのことができないか？という意見があり、急だったので、今年度はひろば主催の企画に参加することにし、その準備から可能な保護者に参加してもらった。当日はひろばから参加した親子とも交流する機会も作れた。
- ・キャリアアップ研修の受講や市役所全体研修、東地域会議での研修、外部研修などに積極的に参加し、それぞれの学びを共有した。
- ・今年度の園内研修は職員の悩みから、「保護者対応について」をテーマとした。オンデマンド研修を鑑賞した後、具体的な悩みや疑問、気づきなどを話し合い、日頃の保育に生かすことができた。
- ・昨年に引き続き、それぞれの抱える仕事内容を整理、分担しながら工夫していった。今年度入職した職員にも無理ない程度に引き継ぐようにしていく。
- ・隣接しているすすくすく泉公園には近隣の保育園も遊びにくるので、顔見知りにもなり、子ども同士が関わって遊ぶこともあった。特に、年中、年長の子たちとの関わりは、すすくすく泉の子どもたちにとっては刺激になった。
- ・今年度、初の試みで近くのデイサービスに訪問。お年寄りの方と数分の交流をし、一緒に手遊びをするなど、お年寄りの方にとっても喜ばれた。緊張気味の子どもたちも、帰るときは手を振ったりしていたので機会をみつけて継続したいと思う。
- ・例年通り、近隣の園からお芋堀り、観劇、お店屋さんごっこに招待され交流した。
- ・ホームページをリニューアルしたことで、多くの方が園見学に来てくれた。

【達成目標に対する評価・反省】

・3事業の連携で質を高める

- * 今年もひろばプログラムの講師を「いずみのおうち」の保育士が行い、「おんぶ講座」「保育園生活座談会」を行った。加えて、公園での運動会を保育、ひろば合同で開催した。また、給食で提供しているスープが味わえるイベント「はじめてのひろばのピクニック」「一本桜のお花見会（3月予定）」を実施、また、保育、ひろばが合同企画で一緒に楽しめる運動会やクリスマス会などを行った。
- * 保育の親子が土曜日にひろばを利用する姿、ひろば利用から入園に繋がる例が見られる。
- * 公園では、保育、ひろば、一時預かりの子と一緒に遊ぶ姿が見られ、ひろばの親子と保育の保育士との交流も生まれている。
- * ひろばのベビーマッサージ、はじめてのひろばなどに参加した親子に対し、『保育所体験・赤ちゃん触れ合い体験』を紹介し、多くの参加者が保育所体験をした。
- * 避難訓練・防犯訓練・災害時事業継続計画の策定など、共に進めた。
- * 数名の一時預かり担当者が、保育室で実習を受けたり、調理や保育の補助スタッフとして入ったりした結果、3事業が今まで以上に顔の見える関係となり、相互理解が深まった。

【子育てひろば事業】

- ・「みんなで育てる」をテーマに、利用者同士の支え合いを促すことを意識した。常連を中心に、何かあるとスッと動いてくれて、初めての利用者にも話しかけてくれたり、一緒に遊んだり、あたたかい空気感がつくられてきたと思う。
- ・そんな中で、反省点としては、「初めてのひろば」に参加し、話を聞いて期待感を持って後日来てくれた方に、排他的な雰囲気を感じさせてしまった例があった。その時は、療育に通う子の世話に疲れたママが休めるように、あえてスタッフが子どもと遊んでいたことで、その方に十分な対応ができず、クレームになった。後にその気持ちを話してくれたので対応することができたが、黙って利用しなくなる方もいるのだろうと、ひろばスタッフの動きについて改めて話し合いをした。
- ・子どもの発達を刺激する「すくすくタイム」。今年度は週2回、たっぷり遊んで、遊びと発達についてお話してきたが、同時時間帯に行ったため参加者が同じ場合も多く、週2回が多いと感じた。来年度はさらに工夫をし、多くの利用者に届くようにしたい。
- ・若い世代の防災意識を高めるため、Tomonyday では、防災をテーマに話をする時間を設け自助の大切さを話し合い、また、災害時の共助を促す「炊き出し体験」をやってみた。地域の防災イベントにもひろばに遊びに来ていた親子を誘って参加できた。
- ・ひろばの収納室の棚を作り直し、使いやすくした。また、利用者の荷物棚も新しくし、コート掛けも作り好評。

【一時預かり】

- ・外国籍の親子の利用が増えてきたが、今のところ日本語でのコミュニケーションが大体できているため、目立った行き違いは無い。不安に感じないように丁寧に対応している。英語版の利用のしおりの作成を始めた。
- ・配慮の必要な子どもも最初から断らず、話を聞きながらできる限り対応することができた。他の子どもとの関りが難しい面もあったが、スタッフの情報共有により、継続利用につながっている。
- ・今年は新たに3人が保育士資格の試験にチャレンジした。残念ながら合格に至らなかったが、引き続き資格取得を目指す。
- ・今年度より始めた定期利用枠（多様な他者との関りの機会の創出事業）は人気で、利用枠は常に埋まっている状況である。週に一度でも子どもにとっては多くの経験ができる時間であり、他の子どもたちや、保育者とかかわりの中で、刺激を受けるチャンスになっている。継続支援あり、保護者にとっては、孤立防止や育児不安を支える役割を果たしてきた。今後、保護者面談の質をさらに向上させていきたい。

【小規模保育事業】

- ◆年度スタートは11名全員そろうことが厳しい状況であったが、月の入所状況などで0歳児を1名から2名に変更したりしたことで、7月に11名そろうことができた。また、今年度はホームページをリニューアルしたことで見学者が増えたが、来年度も園見学を随時受け付けて、園児確保をしていきたい。

◆常勤スタッフが8月から4ヶ月体調不良のため休職になり、シフト組みに苦労したが、ひろばの有資格スタッフに応援してもらい、なんとか子どもが安心できる保育確保ができた。これをきっかけに、ひろばと保育室との相互理解が深まったこともよかった。

◆「保育参観・参加」から「保育士体験」という形に変えたことで、自然に子どもが過ごしている様子や、保育士と子ども達とのやりとりを見てもらうことができよかった。

◆保護者が保育室の中に入って送迎の支度ができるようにしたことで、保護者同士のコミュニケーションもみられた。

◆研修報告は、出られなかったスタッフなどにも報告することで、本人も改めて自分の物になっていく効果があった。これからもそのような機会を作っていきたい。

【地域とのつながりについて】

- * 今年も「昔遊びの日」を行った。地域のお年寄りにお手玉やメンコなどを、乳幼児、小学生、若者、高齢者…。異年齢で楽しく交流した。
- * ひろばでは月に1回の読み聞かせの会に地域のボランティアさんが継続して来ていただいている。
- * 公園で地域の公園ボランティアさん、他保育園の子どもたちや先生、また井之頭小学校の子どもたちとの日常的な交流がある。
- * 今年も井之頭小学校のおまつりにひろばのブースを出させてもらい、乳幼児と小学生の交流の場を提供した。
- * 保育では、お散歩で高齢者支援センターを訪問した。デイケアセンターの方たちと一緒に手遊びなどして交流した。

【令和7年度以降の見通し】

【子育てひろば】

- ・多様な働き方、また子育てに関する感覚の違いなどに留意しながら、子育て世代の心のよりどころとされるような場にしていく。さらに、その親世代や地域の人々にも、子育ての拠点として認識され、見守ってもらえるような施設にしていきたい。
- ・スタッフの入れ替わりで、新しい感覚での見直しと、プログラムを企画する。また、10年で作り上げてきた理念に基づく日常を継続させるための研修なども改めて大事に次世代へ伝えていく。
- ・引き続き、子どもの発達や遊びについての学びを継続し、利用者にも伝えていく。知識をひろめ、インクルーシブひろばを目指す。
- ・若い世代の防災意識を高める。特に子育て世代の「自助」の推奨、「共助」の意識を生む取り組みをしていく。顔見知りを増やそう！も第一歩。
- ・各拠点のスムーズな連絡体制、合同研修など実現したが、ここからさらに、市内の利用者支援事業との連携で、親子を施設ごとの対応から、連携した見守り支援の体制が取れるといいと思う。保健師さんの巡回はありがたいが、情報を伝えた後のフィードバックは個人情報の問題もあり期待できない。

子ども家庭支援センターとの情報共有は令和6年度はほとんどなかったが実際どうだったのか、すすく泉でできることを考えていきたい。

- ・小・中・高生、大学生などの若い世代と、利用者親子との出会いのきっかけを増やす。
- ・プレママ・プレパパの来所が少ない。早くからひろばの存在と内容を知ってもらう工夫をしたい。「はじめてのひろば」にも参加が少ないので増やす工夫をする。
- ・「すすくタイム」の内容を再考し、もっと利用者に届く内容、また、相談援助体制を整えたい。

【一時預かり】

- ・多様な子育てそれぞれの事情に配慮して、子どもを一時的に預かることに加えて、子育ての相談相手になれるよう、お預かり、お返しの短い時間であっても、信頼関係を結ぶよう、会話を大事にしている。傾聴、個人情報の扱いなどの研修を重ねる。
- ・有資格スタッフを1日通して配置するため、資格所得、有資格者採用、シフト組みに力を入れる。
- ・令和6年度より始めた『多様な他者との関わりの機会の創出事業』の定期利用枠利用者に対して、毎月面談を行う機会をつくり、共に子どもの育ちを喜び合い、相談援助を含む寄り添いをしていく。また、少ない利用枠ではあるが、まだ知らない方も多いため、さらに周知をしていく。
- ・保護者のレスパイトに重きをおいてきた一時預かりは、大人主体の保育になりがちだった。できるだけ子ども主体で、安全、安心な上に、子どもにとって「快」な一時預かりを目指す。

【小規模保育事業】

- ・定員11名に増え安定した人数確保のために、ホームページや園見学などで外部へわかりやすくアピールしていく。
- ・ICTの導入により、仕事の効率化と保護者との情報共有などを引き続き進めたい。
- ・子ども一人ひとりに合わせた保育をしていくために、スタッフが、子どもの姿やかかわり方について、自分が感じたことや考えを出し合い検討を重ねる場を、今後もつくっていく。非常勤スタッフや給食スタッフとも情報共有していく。
- ・保護者との信頼関係を結びながら多方面から支援する。
- ・保護者同士が交流できる場を工夫してつくっていく。
- ・アドバイザーの毎月の視察や会議、テーマをもった園内研修、またオンラインを活用してキャリアアップの研修や市主催の全体研修など外部に自ら学びに行く機会を作っていく。
- ・小中高生対象のボランティア、中学生の職場体験を受け入れる。または高齢者と出会う機会を創出し、子どもたちが多世代と関わる経験をつくる。
- ・ひろば親子を対象にした『保育所体験・赤ちゃん体験』などは、さらに内容の充実をはかりたい。
- ・引き続き、近隣の保育園とは、公園遊びの見守りや合同研修会などを通して、子育てを共に学び合う関係づくりをしたい。

